

わたしたちに 愛鳥週間は いりません



●わたしはシゾチュウ——約1億5千万年前の地球に姿を現わした、トリの先祖です。
このわたしが元になり、長いあいだに進化し、分かれて、いま皆さんが見るようないろいろなトリになりました。
地球上のトリたちは、自然がつくったすばらしい文化財です。

59

愛鳥への関心は一週間だけではありません

五月十日から「愛鳥週間」です。でも、自然保護に理解のある国には「愛鳥週間」がありません。毎日がバード・デーであり自然保護の日だからです。自然環境の悪化や野鳥の減少、公害や農薬がトリとヒトの生活に及ぼす影響、野鳥保護行政に求められる積極性など、解決しなければならぬ問題がたくさんあるわが国からいつ、愛鳥週間がなくなるでしょうか。

いうまでもなく愛鳥週間の目的は、アンチョウやカナリヤなどの飼いの鳥をかわいがろうというのではないし、ニワトリの肉を食べないというのでもありません。野生の鳥類の保護について考え、関心を高めることです。いいえ、関心を高めるだけでなく、宇宙船地球号乗組みの一員として、トリもヒトも美しい自然の中で、ともに健康な生活を営む権利があるということに、もっと関心を持ち続けていただきたいのです。

探鳥は流行でやるものではありません

関心といえば、最近では野鳥への関心がたいへんに高まり、いろいろなところでいろいろなかたちで、野鳥のことが取り上げられるようになりました。ことはとくに、探鳥（バード・ウォッチング）が、新しいレクリエーションとして話題を呼んでいるようです。新しい関心が、ひろい共感を生み、やがて大きな波となって人びとにひろがっていく——これは、保護活動にたずさわる関係者にとって、すばらしく力強い支援です。

ブームに見たような、熱狂的なものでも、一時期の流行に走るものでもありません。探鳥が、野鳥に関する他の楽しみ方——狩猟や飼育ことやハク製にして飾るといったことと根本的に違うのは、楽しむ相手である野鳥の生命を大切に、驚かしたりおびやかしたりしないということ、静かで地味なレクリエーションなのです。

探鳥——この新しい関心が、時代の先端を「走る」のではなく、追われている何かを護ろうと「歩く」であることを認識してください。愛鳥週間が、やがて不要になるように記す第一歩として……。



財団法人日本鳥類保護連盟
サントリー株式会社

●この広告は、財団法人日本鳥類保護連盟の指導を得て、サントリー株式会社からシリーズとして制作。次の各紙に月1回掲載しているものです。この要請ください。
朝日・毎日・読売・サンケイ・中日・中国・山陽日刊・北海道・西日本・下野